

松山の観光魅力度アップ策

観光の柱は「俳都・松山」と「瀬戸内・松山」 新たな資源も発掘 修学旅行に加え、企業旅行誘致に力

愛媛県松山市長・野志 克仁氏

昨年11月の松山市長選挙で、元地元放送局のアナウンサー、野志克仁氏が当選した。新市長は公約の1つに「誇れる地域の宝を磨き、笑顔に」という項目を盛り込んでいる。松山の観光に対する市長の考えを聞いた。（インタビューは3月中旬、都内で行った）

——公約の中に「誇れる地域の宝を磨き、笑顔に」という項目があります。

「坂の上の雲のまち効果を継承・発展し、平成のベストセラーを目指す』『三津の朝市、松山総合公園の整備など、坂の上の雲のサブセンタースタイルの活性化を検討する』『道後温泉、松山城のブランド力を高め、国際文化観光都市として観光客600万人を目指す』『北条・島しょ部の活性化に努め、風早レトロタウン、愛ランド里島構想の検討に着手する』を盛り込みました」

——松山の魅力を改めてお聞きしたい。

「『坂の上の雲』のまち。観光の柱は2つで、やはり松山城と道後温泉に尽きます。」

さらに、瀬戸内海の新鮮な幸、温暖な気候で育つミカンなど山の幸も豊富。市政にとって観光は極めて大きなウエートを占めています。地元放送局に入り、2年目から番組を持ち、約20年にわたって県内各地をきめ細かくリポートしてきました。発見の連続でした。もちろん、まだまだ知らないところも数多くあります。1つでも多くの魅力を見つけ、伝えていきたいですね」

——観光客数はどのくらいですか。

「99年のしまなみ海道開通がピークで、この時には約610万人の観光客数を記録しました。団体から個人・小グループへと旅行形態も変わり、09年では約525万人となっています。前年比4%増

で、スペシャルドラマ『坂の上の雲』効果を活用した誘客戦略が実を結んだと思います」

——観光振興にあたってのスタンスは。

「中村時広前市長（現愛媛県知事）の路線を継承・発展させていきます。知事も話し合いながら、県と協力して観光振興に努めたい」

——野志カラーをどう打ち出していきますか。

「現在、修学旅行の誘致に力を入れています。さらに中京圏などから約40校が来松しました。広島・松山・関西ルートの提案などプログラムを充実させ、アピールしていきます。また、修学旅行誘致の経験やネットワークを活用し、企業の研修旅行の誘致にも挑戦したい」

「『坂の上の雲』の主人公たちの足跡や、昔スイツなどをテーマとしたまち歩きメニューが新登場しました。松山に縁の深い俳句とまち歩きハイクをかけて『松山はいく』と言います。専属ガイドの案内で松山のまちをご満喫

下さい。また、四国と言えばお遍路。松山には八十八カ所のうち八カ所があり、歩くことで『おせっかい文化』を知っていただき、疲れた身体を温泉で癒してもらおう。松山の新しい旅の仕方、特に企業の方にお勧めですね」

——俳句も国際的になっていくようですね。

「昨年4月、日・EU（欧州連合）英語俳句コンテストが開かれ、2週間の間に500を超える句の応募がありました。ルーマニア人の句が最優秀賞を受賞し、道後温泉に招待されました。今年も子規記念博物館開館30周年の節目でもあり、国内外から俳句好きが集まってもうよう、『俳都・松山』をアピールしていきたい」

——ドラマ『坂の上の雲』も今年で完結します。

「おかげさまで、松山に注目が集まりました。また、嬉しいことに、来年の大河ドラマは平清盛で、瀬戸内海が舞台になります。集客のチャンスととらえ、広島地域と連携し、周遊型観光を提案、集客に努めたいですね」

——ところで市の観光予算はどのくらいですか。

「10年度は17億6千万円、11年度は18億1千万円となっています」

——中村前市長は坂の上の雲のまちづくりを掲げ、坂の上の雲ミュージアムなどを造りました。市長はどんなまちづくりを。

「先ほども言いましたが基本は中村市政の継承・発展です。明治という切り口で見ると、新居浜に日本三銅山の1つ、別子銅山があります。住友発祥の地で、東洋のマチュピチュとも言われています。また、今治沖の来島海峡に浮かぶ小さな島、小島には明治中期に建てられた芸予要塞が残っています。戦争に使われたことのない要塞であり、この2つは産業観光としてアピールできます。足を運ぶ人も増えており、新たな観光スポットになるでしょう」

「一方、旧北条市には鹿島という周囲1.5kmの小さな島があります。寅さんこと渥美清さんが好きだった場所、昭和の面影を色濃く残しています。昭和をキーワードにしたまちづくりができないか考えています。今あるものを生かすという観点からまちづくりを行いたい」

——訪日外国人観光客の取り込みは。

「現在、年間2万8千人ほどの観光客が訪れています。松山空港はソウルと上海に路線を持っており、中国、韓国はもちろん、台湾を視野に入れ、外客を増やしたい。特に、台湾には同じ名称で国内路線の松山空港があり、将来は松山空港発着のチャーター便が飛ばせればと考えています。先般、中村知事と台湾を訪問し、トップセールスをした結果、700人の来県が決まりました。今後は広島空港発着便を活用した瀬戸内海ルートも提案していきます」

——松山といえば道後温泉ですが、耐震の問題もあり、本館の改修を余儀なくされていますね。

「安全面を考えると避けては通れません。ただ、道後温泉本館改修については旅館・ホテルはもちろん、地域経済にとっても大きな影響があるだけに、この問題は慎重に対応したい。宿泊施設関係者からは『スペシャルドラマ終了後、2年は手を付けられない』という要望が来ています。改修工事を行う場合、十数年かかると言われているだけに、新たな魅力づくりをしないまま工事に着手するわけにはいきません。いわゆる第3の外湯構想の提案もありますし、工事をオープン化して進捗具合を見てもらうことやソフト面の充実なども考えていきたい。いずれにしても民間と一体となって客足を落さない手法を取っていきま

す」

のし・かつひと 岡山大経卒、1990年4月南海放送入社。アナウンサーとして地元人気番組などを担当。2010年10月退職、11月の市長選で当選。松山市出身、43歳。

【聞き手・内井高弘】

